

令和2年度 学校評価総括表

		「持続可能な開発のための社会づくりの担い手を育てる」 スローガン 「励まし合い、競い合い、高め合い」				
教育目標		【重点項目】 1 人権尊重の精神を基調として、規律と責任を重んじ、喜びや悲しみを共有できる生徒を育成する。 2 自主・自立的な姿勢や態度を研ぎ、高い志を持って学業のみならず、全てのことに関心を尽くす生徒を育成する。 3 文化・スポーツ活動に積極的に参加し、組織の一員であることを自覚するとともに、自己の可能性を最大限に発揮する実行力のある生徒を育成する。 4 ユネスコスクールチャレンジ校として、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進するとともに地域の方々と協働し、「地域と共にある学校づくり」を目指し、社会に貢献できる生徒を育成する。				
部	評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等
総務部	式典などの厳格化と刊行物の充実 学校を取り巻く団体等との関係構築	式典の厳格化と刊行物の充実	・式典において、丁寧な実施計画策定と生徒の式典に対する意識付けの徹底 ・刊行物の企画・編集・校正等の問題点の改善	C	式典において、3密を防ぐ為、全生徒・職員が一同に集まり、厳格な雰囲気で開催が出来る、放送等を用いる形態となった。刊行物については、企画から改変し改善を行った。	今年度だけでなく、昨今の問題等も含めて、ICT利用等を含めて、式典の実施方法についてはより良い方法を模索する。刊行物においても、紙面だけでなく、データ化を行う。
		校務分掌間の連携強化	・学内の組織改革から、校務分掌間の報告・連絡・相談の徹底と連携強化	B	会議資料のデータ化や遠隔参加も取り入れた。しかし、学外の企業が行われている遠隔会議などのICT利用方法を更に参考にして報告・連絡・相談を行い連携強化が必要	各部署からの会議資料の事前配布の徹底を行い、会議時間の短縮化により、先生方の教材研究等に時間を割けるように改善を行う。
		育英会・同窓会・近隣地域等とより良い関係作りに取り組む	・学校を支えている各種団体・組織との連携 ・地域に関わることで、より良い教育環境の構築化促進	A	育英会との連携強化も進み、同窓会においても様々な新たな取り組み強化を実施した。更に、同窓会との関わりから近隣の商店街様とも地域課題解決に向けて連携を開始した。	単に本学への協力を要請する事無く、それぞれが持つ課題解決に双方が理解・協力する姿勢を持ち取組む。地域課題に対しては、職員だけが関わるのではなく、生徒が主体となれるように様々な企画を取り入れていく。
教務部	魅力のある教育課程の編成	新教育課程の編成	・時代のニーズを先取りし、建学の精神や教育目標に沿った本校にふさわしい教育課程の編成	B	2022年度(新学習指導要領実施)入学生の教育課程の編成に取り組んだ。	2022年度(新学習指導要領実施)入学生の教育課程は2021年度中に完成させる。
		新学習指導要領が求める人材育成を踏まえた授業への改善	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・上記の実現に向けた校内外での研修の推奨 ・上記研修で得た知見や情報の共有	B	教科主任等の本校を代表する教員が県の教育委員会や教科研究会等の主催する研修会に積極的に参加することができた。教員間で授業見学を実施し、意見交換しながら授業改善を目指すことができた。	教員間で授業改善の取り組みについての情報を共有したり、各教科で相互に助言したりして、校内研修等の充実を図る。
		ICTを利活用した指導の充実	・必要なICT環境の検討・充実 ・ICTを利活用した授業等の実践 ・ICTを利活用した授業実践の蓄積・共有	B	今年度予定分の環境整備工事が完了した。各授業で、ICTを活用した授業実践が進んだ。中でも、コロナ禍対応でのオンライン授業を迅速に実施することができた。	次年度以降も環境整備の継続を計画している。授業では、よりICTを活用した授業実践を推進していく。
進路指導部	希望する進路の「保障」から「保証」へ	キャリア教育 6ヶ年／3ヶ年計画の改定	・キャリア教育に関係する行事の精査(キャリアガイダンス、職業理解、学部研究、職場体験、ボランティア、体験学習、講演会、面接、志望理由書、近畿統一用紙、高大連携、進路HR等)	C	コロナ禍で対面授業のスタートが遅れるなど、大きな影響が出たため、今年度の進路行事は、日程変更・延期・中止等多岐にわたった。	「進路シラバス」(仮称)を策定し、各学年・コースにおいて、年度や担当者に関係なく行事を実施できる体制を整える。
		管理体制の強化	・自習室の有効活用 ・朝学習における実施状況精査・内容の検証 ・進路指導部と対象学年で入試説明会、応対記録等の情報共有	B	自習室は有効に活用できた。入試説明会等はコロナ禍の影響でオンラインでの実施が多く、逆に教員の説明会参加が多くなった。	朝学習は、大学入学共通テストの出題傾向を踏まえ、図表の読み取りや速読に力を入れる。
		広報活動の充実	・各種説明会の充実(進路説明会、出願説明会、高大連携協定校・指定校説明会) ・入試情報広報の充実(進路指導部通信、土曜プログラム、進路情報誌、各種案内チラシ、ホームページ、育英会委員会報告等)	B	コロナ禍で予定や形態の変更はあったものの、オンラインを利用するなどして各種説明会は滞りなく実施できた。しかし、広報活動については新たな手立てを打つことはできなかった。	各学年・コースと連携の上、上記「進路シラバス」(仮称)の策定に尽力する。
		数値目標 国公立大学15 難関私立50	・個々の生徒の進路実現に向けた取り組みの充実(選抜コース担当者会、進学補習、模擬試験受験対策・分析会、学習合宿、キャリアガイダンス、土曜プログラム、学力向上委員会、進路指導部通信での情報提供、自習教室)	B	最終結果については改めて後日に示す。新入試やコロナ禍で不安が多かった2021年度入試であったが、生徒個々の頑張りと学年団の細やかな指導で、難関私立については目標を達成できた。	大学入学共通テスト等、種々の入試問題を分析すると共に、各種進路行事等の内容や時期を厳選し、生徒の学力向上への足掛かりとする。

部	評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等
生徒指導部	励ましあい、競い合い、高め合う心をもつ生徒を育成するための適切な指導と支援	生徒が自ら自己実現を図っていくための自己指導能力の育成	・時間を守ることに對しての意識付けを徹底する。(遅刻削減の為、生徒・担任に情報を提供し、生徒会と共に啓発活動を行う。) ・様々な活動や行事等を通して、愛校心の醸成を図る。	B	チャイムスタートは各学年団が主体的に取り組むことで生徒に浸透できた。新型コロナウイルス感染予防の為、遅刻の指導に関しては配慮を要した。	新しい生活様式の中での時間を守ることに對しての意識付けを徹底する。理由のない遅刻削減の為、生徒・担任に情報を提供し、生徒会と共に啓発活動を行う。
		生徒の夢の実現を支援するために、生徒が安心してよりよい学校生活を送れるようなサポート体制の充実	・学校全体での登下校指導体制の構築を図る。 ・多様化する生徒に對応できる力を養う研修会を企画検討する。 ・情報モラルの醸成を図るために外部機関を積極的に活用する。	B	登下校、電車内のマナーに関する苦情があった。(コロナ関係も)外部機関による情報モラル講演会を実施することができたが、SNSのトラブルが散見された。	学校全体での登下校指導体制の構築を図る。多様化する生徒に對応できる力を養う研修会を企画検討する。情報モラルの醸成を図るために定期的な啓発を行う。
		不易と流行を常に意識し、新たな知見を取り入れ、生徒一人一人をしっかりと見つめ、生徒の意欲喚起の促進	・生徒が主体的に学校生活のルールを考えられる体制を構築する。 ・保護者の意見を集約できる機会を設ける。 ・自治会や地域行政と積極的につながり、様々なニーズに応じたボランティア活動を推進していく。	B	生徒会が中心となりコートの規定を新しく定めることができた。地域との連携は、新型コロナウイルス感染予防の為行うことができなかった。	生徒が主体的に学校生活のルールを考えられる体制を構築する。保護者の意見を集約できる機会を拡大する。自治会や地域行政と積極的につながり、様々なニーズに応じた現地以外でのボランティア活動を推進していく。
		生徒が主体となった生徒会活動の実施	・生徒会会則の見直しを図る。 ・生徒会・委員会が主体的に行事等を行えるような体制を構築する。 ・生徒会委員会活動の更なる活性化を図る。 ・重咲祭等の生徒満足度を向上させるための企画を検討する。	B	重咲祭は規模の縮小、時期の変更等があったが無事終えることができた。生徒会活動に関しては、さらなる活性化が必要である。	新しい生活様式の中での生徒会・委員会が主体的に行事等を行えるような体制を構築する。また、生徒会委員会活動の更なる活性化を図る。
国際文化部	自分とは異なる価値観を受け入れ、理解しようとする心を育てる教育活動の支援を関係各所と連携し、実現する	グローバル教育事業の推進	・教職員・保護者・生徒を対象とした講演会や研修会の実践 ・多様な文化的背景を持つ子供たちの受け入れ体制の検討 ・留学・海外研修の充実 ・国際交流、海外連携校の拡大	B	コロナ禍で生徒の海外派遣や海外生徒の受け入れができなかったが、海外とのオンライン交流や、オンライン英会話など国際理解Gコース中心に他コースや中学生にも拡大できた。	・国際理解Gコース以外にも国際交流の機会をさらに増やし、その活動内容や意義を共有する。 ・海外の大学も進路選択になるよう海外の大学進学説明会を行う。 ・姉妹校提携(台湾)を実現し、交換留学生を受け入れるなど新たな活動を取り入れる。 ・帰国子女や留学生などを積極的に受け入れられる体制を作る。 ・本校の協定大学やその他ゲストスピーカーを招いての講演会の実施や研修会の案内を充実させる。
		文化・芸術・教育の促進	・文化部の活動実態の把握と活動の場の拡大 ・重咲祭や修学旅行等の文化的行事の充実と意味付け ・校内アートの充実 ・図書館の更なる充実とその教育的利用方法の検討	B	・2学期にArt Weekを実施し、軽音楽部・吹奏楽部・箏曲部が昼休みに演奏を披露した。また、オンラインで視聴できるようにした。 ・ESDを基礎とした「総合的探究の時間」での学びの成果を重咲祭で発表をした。 ・ESDの学びを充実させることができる修学旅行の行き先を検討し、現高1からグアムからセブ島へと行き先を変更した。 ・美術の課題作品を廊下掲示板に定期的に展示し、生徒や教職員が足を止めて鑑賞する様子が日常的に見受けられた。 ・感染予防対策として、図書館外に図書返却ポストを設置し、利用者からは好評である。図書館内から人通りの多い職員室前に新聞各紙のラックを移転したことで利用者が増えた。	・Art Weekのより良い実施方法を検討する。 ・「総合的探究の時間」や普段の教科学習を通じて、修学旅行の事前学習を実施し、生徒たちの心を揺さぶるような修学旅行にする。 ・芸術科教員と連携し、今年度以上に校内アートを充実させていく。 ・図書館利用の促進と教育的利用の充実を図り、実行したい。また、読書イベントの企画を図書委員会主催で開催する。
保健安全部	自他の生命を尊重し思いやりのある心の醸成と、自己実現に向けて努力する生徒の育成とその支援	生徒の実態把握と情報共有に努め、共通理解をもって生徒の心に寄り添った指導の展開	・教育相談・保健指導および職員研修の充実 ・迅速かつ正確な情報共有	B	教育相談において、担任・カウンセラー・コーディネーターの連携が取れており、月々の報告を管理職を含め共有してきた。時期に合わせて、保健便りなどを通して健康管理の啓発を行ってきた。	継続して、家庭との連携や教員間での情報共有を図り、対応していく。
		環境整備の徹底と美化意識の醸成、並びに組織的な学校安全・防犯・防災体制の確立	・清掃活動の充実と環境美化の徹底 ・避難訓練や防災HRを通して正しい状況判断ができる力を付けさせるとともに、ワークシート等での振り返り	C	清掃活動をないがしろにする生徒は少ないが、美化意識についてはクラス・個人の差がみられる。感染症対策の観点から、一斉避難の訓練を実施することができなかった。	自主的な環境美化活動につながるような啓発方法を検討する。今後も、時期や社会情勢に沿った安全教育を展開していく。防災に関する視聴覚教材の充実。
		生徒の主体性を引き出し、学校生活の活性化を図る	・生徒会を中心とした生徒が主体的に取り組む体育行事の開催 ・運動部の活性化(キャプテン・クラブ顧問会議等)を通して活力ある学校生活の推進	C	感染症対策の観点から、本年度は全ての体育行事を大幅な変更もしくは中止の判断をせざるを得なかった。運動部も活動方法が制限される中、様々な工夫をし活動する各運動部の努力が見られた。	コロナ禍であっても、生徒の学校生活が充実したものにしよう、行事の実施形態を検討していく。
入試広報部	命の教育・ESD教育・ユネスコ認定という3本柱の具現化 ・中高共に、定員確保の常態化 ・安心安全信頼される広報をモットーに専願率100%達成	受験生・入学定員の確保	・徹底した塾訪問・中学校訪問の実践と外部への発信強化		未定	未定
		入試広報部内の改革	・責任の所在、部内ガバナンス強化、部内研修の強化	A	すべての行事にチーフをおき責任をもって実行できた。	今後も継続。
		入試改革	・令和という時代に即して、柔軟かつ先駆的な入試の導入検討	A	中学校入試にSP入試の導入できた。	今後も継続。
		各種広報行事の充実	・各種行事でのクレドの理念に則った、品格のある接遇、立ち居振る舞いの推進 ・本校のイメージ戦略の充実による専願者確保	A	専願者集会の発展・塾別塾説など充実させられた。	今後も継続。

学校自己評価(4段階評価) A:達成度が高い B:概ね達成している C:課題を残している D:速やかな改善が必要である